

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-110	A-540	24-007	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名(原題/訳)			
Risk of mortality among patients with alcohol-associated hepatitis in the US from 2007 to 2021 2007年から2021年までの米国におけるアルコール関連肝疾患患者の死亡リスク			
執筆者			
Tu W, Liangpunsakul S, Nguyen CM, Healey R, Li Y, Radaeva S, Gawrieh S, Bataller R, Su J.			
掲載誌			
Alcohol. 2024 Nov;120:143-150. doi: 10.1016/j.alcohol.2024.06.006.			
キーワード			PMID
アルコール関連肝疾患、死亡率、予後			38908609
要旨			
<p>背景: アルコール関連肝疾患(AH)の死亡率や危険因子は、実社会では注意深く研究されていない。そこで、本研究はAHにおける死亡率、時間的傾向、危険因子を検討した。</p> <p>方法: 全米50州の約7500万人分のデータが含まれるOptumのClinformatics® Data Mart(CDM)の医療請求データを用いて、ICD-9およびICD-10によりAHと診断された者の追跡調査を行った。AHは、CCI分類に従い、「軽度」(様々な形態の肝硬変、ウイルス性肝炎、アルコール性脂肪肝疾患、アルコール性肝炎、アルコール性線維症・硬化症)または「中等度～重度」(食道・胃静脈瘤、肝性脳症、肝腎症候群、門脈圧亢進症、肝壊死を伴う中毒性肝疾患、あらゆる形態の肝不全を伴う重症疾患)に分類された。人口統計学および臨床的特徴を入院状況別に層別化し、Cox回帰分析を用いて、90日および180日死亡ハザード比(HR)と95%信頼区間(CI)を算出した。</p> <p>結果: AHの診断前に少なくとも1年間継続して保険に加入していた32,001人の患者(72%が男性)が分析対象となり、このうち20,912人(65.3%)が入院していた。90日死亡率および180日死亡率は、入院患者ではそれぞれ12.0%(95%CI:[11.6%, 12.5%])および16.0%(95%CI:[15.4%, 16.5%])、非入院患者では3.1%(95%CI:[2.8%, 3.4%])および5.1%(95%CI:[4.6%, 5.5%])であった。既往の肝疾患は軽症であっても死亡リスクの上昇と関連していた。入院患者では、軽度の肝疾患の既往は180日死亡リスクの24%上昇と関連していた(HR 1.24, 95%CI:[1.14, 1.36])。中等度から重度の肝疾患の既往は入院患者(HR 2.33, 95%CI:[2.12, 2.56])、非入院患者(HR 2.53, 95%CI:[2.01, 3.18])ともに2倍以上の180日死亡リスクと関連していた。</p> <p>結論: 肝疾患の既往は、重症度に関わらずAH死亡率の有意な増加と関連していた。この結果から、予後や予防のために、肝疾患の既往を考慮すべきであることを示唆している。</p>			